

## 参 考

### ○ ジョブコーチの手法

ジョブコーチは、障害のある人が就職後、職場に円滑に定着するために職場内外の支援環境を整える者です。

職場定着のためのジョブコーチの手法には、対象者の自立度と理解度に合わせて、次の①～⑤の5つがあります。

①課題分析 ②指示の4階層 ③最小限の介入 ④距離 ⑤ほめ方、修正の仕方

#### ① 課題分析

課題分析とは、一連の作業を小さな単位に分けて時系列に沿って並べたり、作業内容を具体化したりすることです。

例えば、「コーヒーを3人分入れる」作業は次のように細分化できます。

- 1 やかんに水を入れる
- 2 やかんにガスコンロに置き火をつける
- 3 フィルターをドリッパーにセットする
- 4 ドリッパーをコーヒーポットの上に置く
- 5 コーヒーの粉を3杯ドリッパーに入れる
- 6 コーヒーカップを3つ用意する
- 7 お湯が沸くまで待つ
- 8 お湯が沸いたら火を止める
- 9 ドリッパーにお湯を注ぐ
- 10 ドリッパーをコーヒーポットの上からシンクへもって行く
- 11 コーヒーポットのコーヒーをコーヒーカップに注ぐ

細分化すると、一連の作業の中にできることや課題の作業があることが明確になります。

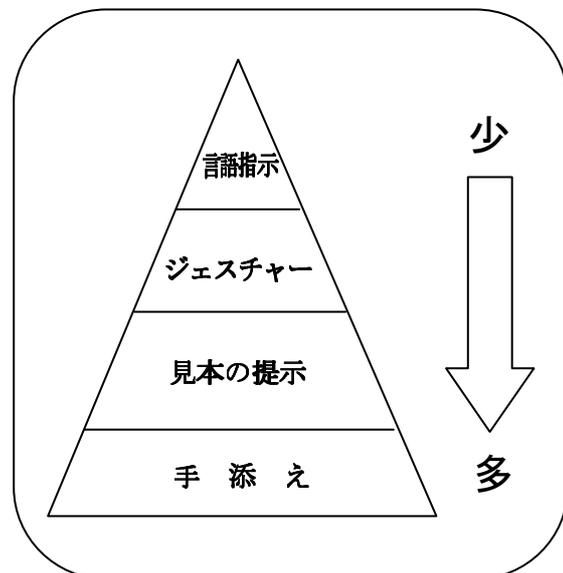
できる作業を担当したり、課題の作業に支援を工夫したりします。

なお、指示や説明に用いる道具等の名称は統一します。

#### ② 指示の4階層

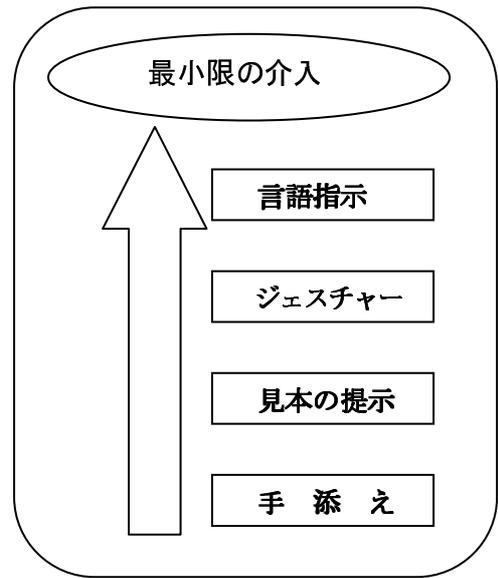
その場の思い付きで教えるのではなく、介入の度合いを順序立てて系統的に教えることです。指示には大きく分けて、**言語指示**、**ジェスチャー**、**見本の提示**、**手添え**の4つの方法があり、その中から障害のある人の自立と理解の度合いに合わせて最も効果的な教え方を選択します。

右図のように、最も支援の少ない指示は、言語指示であり、ジェスチャー、見本の提示、手添えの順に支援が多くなります。また、必要に応じてこれらを組み合わせて支援することも効果的です。



### ③ 最小限の介入

当事者以外の者が入り込む「介入」は、「支援」と置き換えてもよいでしょう。「介入」の仕方は、障害のある人にできるだけ失敗させない方法（エラーレスラーニング）と、失敗をとおして自分の課題を知り学習させる方法（トライアンドエラー）があります。失敗させない方法では、ある程度先行して指示したり、支援を多くしたりして、徐々に支援を少なくしていきます。



### ④ 距離～児童生徒との位置関係

距離は、障害のある人に対する支援者の位置関係のことです。

作業の手順を覚えていないうちは、言語での指示や正しく作業ができていることを、うなずいたり視線を合わせたりして示します。作業手順がある程度身に付いてきたら、少しずつ離れるなど、距離を調整することが必要です。

#### 基本の位置

○真正面は避ける ○利き手側の横

#### 距離の離し方

- 1 表情が見えて視線を合わせられる位置
- 2 視界には入らないが、そばにいることが分かる位置
- 3 視界から離れて、存在が分からない位置

### ⑤ ほめ方、修正の仕方

- 行動を制止する時は、穏やかに行う。
- 間違ったらすぐに適切なやり方を教える。（誤学習の防止）
- 適切にできたら、即座に正しくできていることを伝える。
- ほめ方は、具体的に、シンプルに。